

はじめに　－ご挨拶に代えて－

八瀬の里は、京都の市街地から北東部に位置し、比叡山の麓で古くは日本海（小浜）から京の都へ魚などが運ばれた「鯖街道」が通る自然豊かな山間の小さな里です。八瀬の歴史は古く平安時代にまで遡り悠久の歴史を今に伝えています。そんな里にある八瀬小学校は昨年創立140年を迎えた歴史ある小学校で、60名の子どもたちがのびのびと学校生活を送っています。

八瀬小学校は学校教育目標を「八瀬の伝統と文化を受け継ぎ、未来に向かってたくましく進む子」として、八瀬に育つ子としてのアイデンティティーの確立と予測不可能な社会で自己を実現していくために必要な力の育成を目指して、日々教育を進めています。

新しい学習指導要領が公示されました。本校ではそこに示された資質・能力の育成に向けて昨年度より研究テーマを「自ら学び、共に学びながら、創造し続ける子の育成」とし、よりよい授業を求めて研究を進めてきました。今年度は研究テーマはそのままに、サブテーマを「プログラミング的思考の育成と学習課題の工夫を通して」として、これからのお子様たちにより一層必要となる情報活用能力の育成に向け、教科等の学習を通してプログラミング的思考を育てる授業作りに取り組んでいます。

小学校におけるプログラミング教育の必修化は、道徳の教科化や外国語科の導入などと並ぶ新指導要領のトピックですが、私たちにとっては全く未知の領域です。八瀬小学校には「小さな学校の大きな挑戦」という言葉が受け継がれており、これまでもその時々の課題に挑戦してきました。今回のプログラミング教育の研究は現在の八瀬小学校の「小さな学校の大きな挑戦」です。本校には取り立ててコンピュータやICT機器の活用に堪能な教員がいるわけでもなく、ましてプログラミング教育に至っては完全に「それって何?」という状態でしたが、「子どもたちに情報活用能力を育てる学校作りのためにみんなで挑戦しよう。」との想いで研究をスタートさせました。本日の研究発表会は私たちがこれまでに取り組んできた研究の成果を一定とりまとめ発表・報告させていただくものです。本冊子にある実践は私たちの試行錯誤の足跡であり、その意味では実践そのものには未完成な部分も多々含まれています。ただ、本日報告します研究成果については、まだまだ研究途上ではありますが、本校の教員一人ひとりが行った実践の結果を真摯に見つめ、みんなで話し合い、そこから得られた知見をもとに少しずつ改善を加えながら辿り着いたひとつの到達点としてご報告させていただくものです。そのことをご理解いただければと思います。そしてまた、本日の研究発表会を契機として次のステップへと踏み出したいと考えています。ご参会いただきました皆様には、様々なご意見・ご教示をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、これまでの研究を理論面・指導面およびコンピュータのソフト・ハードの両面で支えていただきました京都市教育委員会各課指導主事の先生方はじめ関係各位ならびに京都教育大学浅井和行教授に心より感謝申し上げます。

今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成30年11月30日

京都市立八瀬小学校長 星尾 尚志

おわりに

本日は、八瀬小学校研究発表会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

本校では今年度、京都市教育委員会の「平成30年度 新学習指導要領の実施に向けた実践研究事業」の指定を受け、プログラミング的思考の育成を目標に新学習要領を意識した授業の創造と工夫に努めてきました。

2020年度より全面実施となる新指導要領では、小学校においてもプログラミング教育が導入されることになっています。今日、コンピュータは日常の生活の中のあらゆる場面で活用され、コンピュータなどの情報機器が生活と切り離すことができない社会になってきています。未来を生きる子どもたちに、よりよい生活や社会づくりに生かしていくようにプログラミング的思考を育てていくことが求められるようになってきました。八瀬の子どもたちには、八瀬地域に大切に伝わる歴史のある伝統と文化を受け継ぐとともに、これからのおまじかくましく学び進んでいく力をつけたいと考えました。

小学校におけるプログラミング教育については、まだまだ先行した実践例も少なく、本校教職員にとても未知の分野です。去年度から、教職員自らプログラミングを体験し、「プログラミング的思考とは?」「どんなソフトがある?」「どんな使い方ができるの?」「タブレットのつかいかたは?」等々、一つ一つ丁寧に研修を積み重ねてきました。今年度は、いろいろな教科や単元でソフトの活用の仕方を考え、子どもたちが意欲をもって学習に取り組み、思考を深めていくように学習課題の工夫を試みてきました。

「プログラミング的思考を育てる授業とは?」「コンピュータもソフトも使いこなせていない教員に、どんな授業ができるのだろうか?」という不安や悩みから始まりました。自分たちで「プログラミング体験」をする中で、授業をイメージしていきました。担任それぞれの思いでいろいろな教科での取組が試行錯誤されていきました。時には、「これって、プログラミングって言えるの?」と悩んだこともあります。使いだすと次々とタブレットが不具合を起こし、使えなくなったこともあります。教育委員会の指導主事先生方を巻き込んで、いろいろなトラブルの解決に当たらなければならぬこともありました。本日の研究発表会では、こうしたこれまで私たちが日々悩み、試行錯誤してきたありのままの姿をご覧いただいたことと思います。まだまだ課題や改善点はたくさんあります。本日ご参観いただきました皆様から、忌憚のないご意見・ご叱正をいただき、今後の研究に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、本校の研究推進にあたりましてご尽力いただきました、京都市教育委員会はじめ関係各位に心よりお礼申し上げます。

今後とも、本校教育活動の充実と進展のために、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

京都市立八瀬小学校
教頭 中村 茂美